

白山ふるさと文学賞

第十四回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生3・4年 作文の部 最優秀賞

「いつも食べているお米の大切さ」

松任小学校三年

八田はつた

岬みさき

わたしは毎日からお米を食べています。テレビでお米が高くなつたり買いたくても売り切れで買うことができなかつたり、何どもいろいろなニュースでながれているのを見ました。お買い物へ行つても本当にお米が売つていない所も見たし、お米があつた日でもお母さんやほかのお客さんがお米の前でずつとどうしようかななどやんでいするすがたも見ました。でも、毎日きゅう食でもお米が食べられるし、お家でもお米を食べています。

「お米はパワーがつくからしつかり食べんなんよ。まだほしかつたらおかわりしてね。」

「お母さんが言つっていました。お米がないのに食べてもいいのかなどふしきに思いました。そんなときに、おじいちゃんのお友だちが、

「田んぼで田植えしてみんか?」

と声をかけてくれました。前いねかりはしたことがあつたけど、田植えはしたことがなかつたし、もつとお米のことを知りたいなと思つたので、田植えにまぜてもらうことにしました。

まず、田んぼに入るときはぜつたいによこれてもいいふくとくつ下できてねと言されました。田んぼにとうちやくすると、たくさんの人�이て、みんなで田植えのやり方のお話を聞きました。わたしはどうやつて田植えをするのか知らなかつたけれど、きかいを使って植えるのと手で植えるのと二つやり方があると知りました。昔の人はきかいがなかつたので、全部手で植えていたそうです。四角い線を田んぼに引いて、線と線がかさなつてある所になえを三つずつ植えることを教えてもらいました。

田植えのやり方を聞いて、いよいよはじめての田んぼに入るときがきました。ながぐつまま田んぼに入ると足がぬけなくなつて動けなくなると教えてもらったので、くつ下のままそおつと入りました。足を入れると、ぬるつとしてて足がぬけなくなりました。気をつけないと顔からころびそうになつたり、手を入れてもぬけなくなつたりし

て植えるのがとてもむずかしかつたです。さいしょは気持ちがわるかつたけど、ずっと田んぼに入つてはいるどんだん気持ちよくなつてきて、ねん土を水で少しぬらしたのをさわつてはいる感じがして、ワクワクがとまりませんでした。

なかなか先にすすめなくて、きれいに植えるだけでも頭も力もつかいました。とちゅうでこしも足もいたくて、休けいもできないし、田植えをするのはとても大へんな仕事なんだとわかりました。こんなに大へんな田植えをしても、じつさいにとれるお米はそんなに多くないよとも教えてもらいました。お米を作ることがこんなにも大へんなことなんだと田植えをして知ることができたので、大事にごはんを食べようとも思いました。

お米のまめちしきも教えてもらいました。ずっと昔から日本にお米があつたけれど、だれでも白いごはんをおなかいっぱいに食べられるようになつたのはおじいちゃんやおばあちゃんが生まれたころぐらいからだつたらしいです。今、わたしもお米をいつもおなかいっぱいに食べることができます。すぐくしあわせです。

日本で一番お米がしゅうかくできるのはにいがた県だそうです。わたしのすんでいる石川県には田んぼがたくさんあるけど、にいがた県にもたくさん田んぼがあるんだなと気づきました。でも石川県が一番じやなくてすこしくやすいです。

おちゃわん一ぱいにはお米が三千つぶも入つていてることも教えてもらいました。そんなにたくさんもお米のつぶが入つていてるとおなかがいっぱいになるはずなのに、食べてもまだたりないぐらいなので、三千つぶも入つていると聞いてびっくりしました。

はじめて田植えをさせてもらって、今まであたりまえに食べていたお米がこんなにも大へんなさぎようをして作られているとわかりました。お米は田植えをしてからすくすく大きくなつて、しゅうかくするまでにまだたくさん時間がかかります。また田植えをお手つ

だいして、農家の人に少しでも休んでもらいたいです。みんなで植えたお米をみんなでおいしいねとえ顔で食べられたらすごくしあわせな気持ちになれそうです。

教えてもらつたお米のまめちしきをお友だちやいろんな人につたえて、もつとお米のことを知つてもらいたいです。そして、お米はとても大事な食べ物だと広めたいです。お米を作る人がすくなくなつてきていることも知つたので、田植えやいねかりをしてみてすごしでもお米を作つてみたいなと思つてくれる人がふえるといいなと思います。ありがとうの気持ちをわすれずにわたしもたくさんお米を食べて、農家の人がおいしいお米をがんばつて作つてよかつたなどえ顔になつてくれるとうれしいなと思います。

